



能  
清経



金剛流  
金剛永謹師



狂言  
蝸牛



大蔵流  
茂山千五郎師

国際交流の夕べ

# 能と狂言の会

オンライン配信

2021年  
12月24日 金

午後2時 配信開始

国際交流基金  
公式YouTubeチャンネル

[https://youtu.be/qZYn\\_CSWYJY](https://youtu.be/qZYn_CSWYJY)

あらすじの英語字幕付き

1年間無料配信



主催：独立行政法人国際交流基金京都支部 協力：公益財団法人金剛能楽堂財団、有限会社茂山狂言会  
立命館大学アート・リサーチセンター



## 国際交流の夕べ

## 能と狂言の会

能

## 清経

平清経の家臣・淡津三郎が形見の髪を持って帰都します。敗戦が続く平家の前途に絶望した清経は豊前の柳が浦(大分県)で入水自殺しました。討ち死にか病死ならともかく自死と知った清経の妻は怨み、「見るたびに心づくし(筑紫)の髪(神)なれば憂さ(宇佐)にぞ返すもとの社に」と受け取った髪を手向け返しますが、夢の中でも会いたいと願う妻の枕元に清経の霊が現れます。妻は夫の自死をなじり、夫は返された形見の恨みをこぼす。二つの世界に分かれ愛し合う二人の愚痴の言い合いです。

怨みを晴らすために清経は平家の落ちのび、宇佐の神にも見放されたいきさつ、入水の様子を語ります。平家の小船を浮かぶ紅葉に例える比喩の美しさ、白鷺の群れを源氏の旗と身間違う不安、月光の船上で横笛を吹いた後に入水するという詩情や無常の感が溢れています。

修羅道の戦いの様を見せませんが、最後には入水の時に唱えた「南無阿弥陀仏」のおかげで成仏しました。

狂言

## 蝸牛

大峰山葛城山で修行を終えた山伏は、故郷の出羽国羽黒山を目指して旅をしていました。しかし、途中で眠くなったので、道端の竹藪の中に入って昼寝をしてしまいます。

場面が変わり、長生きの祖父を持った主人が、もつと長生きをしてもらいたいが、それにはカタツムリを取ってきて食べさせることだと聞いたので、太郎冠者に取って来るように命じます。しかし太郎冠者はカタツムリを見たことがありませんでした。そこで主人より「頭が黒く、腰に貝を付けていて、時々角を出す。大きいものは人間ほどある」というカタツムリの特徴を教えてもらい、村外れの竹藪へ探しに行きます。そこで太郎冠者が見つけたのは、先ほどから寝ていた山伏でした。兜巾や法螺貝を見た太郎冠者は、山伏をカタツムリだと勘違いして、連れて帰ろうとします。

海外からの留学生や外国人の方々、国際交流基金のフェロー、関西国際センター研修生に、日本の伝統文化にふれていただく機会を提供することを目的として、毎年秋に「国際交流の夕べー能と狂言の会」を開催していましたが、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外から日本研究者・留学生等の来日が困難な状況であり、また、感染拡大防止のため、収録した無観客舞台の公演映像を1年間無料配信いたします。